

小雨の天気予報の中、雨の状況を案じながらの研修会となりました。参加者は高橋さんと平田さんご夫婦、車で参加の梶谷さんご夫婦と私小西の計6人（因みに7月2日の下見は関澤さんと橋木さんの参加あり）。天気の方は最初小降りですり傘もさしましたが、途中からはその心配もなく、しっかり写真も撮れました。やはり、晴れ男の私のおかげ??（無視!）

さて、報告の前に、利用させてもらった研修会場のこの施設に少し触れておきましょう。ここには次のような歴史があります。宗教法人大本の教祖が、大正8年に、明智光秀築城の荒れ果てた亀山城址を取得して石垣などを復元、教団の施設を築きました。その後、反戦を唱えたことにより、昭和11年に治安維持法違反の嫌疑で政府により大弾圧を受け、施設が石垣もろとも破壊されてしまいました（大本事件）。昭和17年に無罪判決を受けた後、昭和21年、破壊された石垣の再修復と施設建設に着手、現在に至っています。

その際、法人の施設を建設すると同時に、広く一般の人に開放する意図で敷地の一角に植物園を開設しました。この植物園は、京大の村田源先生監修で、近畿を中心に分布する比較的珍しい植物を1000種ほど植栽して完成した経緯があり、年間を通して訪れると色々な発見がある植物好きにはとても楽しいところといえます。宗教法人管理なので、少し入りにくいと感じられる人も多いようですが、全くそんな心配はありません。ぜひ、機会あれば個人的に訪問してみてください。日頃出会えない花にほぼ通年出会えます。（私は宗教法人大本の回し者ではありませんし、宣伝料も戴いておりません。誤解なきように。）

さて、今回出会ったものをいくつか選んで紹介します。



シロヤマブキ実

ハンカチノキ実

ヤブミョウガ

エビラフジ

シナノアキギリ



カリガネソウ蕾

ヤマユリ

ニガクサ

ミツバウツギ実

キレンゲショウマ



コガネユリ      ヒトツバタゴ実      ハンサンボク実      ギボウシ sp.      オオバギボウシ



ソバナ      シャシャンボ      ナツツバキ      ガンピ      ポポーノキ実



チダケサシ      トリアシショウマ      チョウジソウ実      ヤマシャクヤク実      ハンゲショウ



バイカツツジ      シロシキブ      イブキジャコウソウ      アクシバ      ヒュウガミズキ実



シキミ実

ユキミバナ

ジャコウソウ

クサアジサイ

ヤマモモ実

いくつかの植物を解説しておきます。

○ シロヤマブキ

ヤマブキと同じバラ科だが、全くの別種。花の色が白、自然には岡山県の石灰岩地のみ生育し、絶滅危惧ⅠB類に指定。

○ シナノアキギリ

シソ科のアキギリの仲間、長野県～群馬県に分布し、絶滅危惧Ⅱ類に指定。マルハナバチが潜り込むと、背中に花粉が付くしくみを持つ。

○ カリガネソウ

シソ科。全国の山野に稀。花のみならず葉も触れると大変臭い。別名帆掛草。共に独特の花の形から。送粉のしくみはシナノアキギリと同じ。

○ ヤマユリ

ユリ科。以前は近畿以北の山野に普通に見られたが、採取により減少。原種のユリでは最大級の大きさ。ユリの王様と呼ばれる。

○ キレンゲショウマ

アジサイ科。四国を中心に紀伊半島・九州の山地の湿った石灰岩地に稀に分布する。絶滅危惧Ⅱ類。

○ コガネユリ

オニユリの黄花品種。オニユリと同じくむかごを葉腋に付ける。

○ ガンピ

ナデシコ科。和紙の雁皮紙の原料であるジンチョウゲ科のガンピ「雁皮」と同じ名だが、こちらは中国原産の「岩菲」。

○ チダケサシ

ユキノシタ科。和名はこの茎に食用きのこチチタケを刺して持ち帰ったところから。

○ チョウジソウ

キョウチクトウ科。有毒。青い星形の花を丁字に付ける。湿ったところに生育。準絶滅危惧種に指定。

○ ユキミバナ

キツネノマゴ科。滋賀県と福井県若狭の県境の狭い範囲のみ分布。1993年新種登録。

植物以外の出会いもありました。紹介します。



カメの産卵あと



モノサシトンボ♂



リンゴドクガの終齢幼虫



セマダラコガネ

あとは研修風景とヤマモモの落下散乱の様子です。



以上、報告でした。